

卒業論文の要旨

論文題目	若者の運転行動傾向と性格傾向の関連性 －運転版共感性尺度を中心として
氏名	山本 紗也佳
メジャー	コミュニケーション学
(要旨)	
<p>本研究では、普通自動車運転免許を取得している 135 名の若者を対象にアンケート調査を行った。運転時に他者に配慮する「他者配慮尺度」、他者からのネガティブな感情(予期も含めて)にビクビクする「自己志向性尺度」、そして他者の運転行動にイライラする「イライラ尺度」の3つの下位尺度からなる「運転版共感性尺度」を用いて、男女差および「性別」「不確実性回避傾向尺度」「悲観主義尺度」との相関をそれぞれ明らかにした。また、安全な運転行動のためには、どの尺度を最も改善すべきであるのかについても回帰分析により明らかにした。まず、「運転版共感性尺度」の男女差については、運転に対して不安的な傾向がみられる「自己志向性尺度」が女性は高く、他者の運転に対してイライラしやすい傾向がみられる「イライラ尺度」は男性が高かった。また、「自己志向性尺度」が高い人は、運転に不安を感じやすい傾向があることから、「不確実性回避傾向」「悲観主義尺度」「共感性尺度」すべてと正の相関が見られた。そして、「イライラ尺度」が高い人は「悲観主義」の傾向が見られるとわかった。</p> <p>安全運転のためには、「自己志向性尺度」を下げる必要がある。本研究の回帰分析の結果から、「不確実性回避傾向」と「悲観主義」を低くすることで「自己志向性尺度」も低くなるのではないかと考えられた。特に、「不確実性回避傾向」の方がより強い影響があるので、「不確実性回避傾向」を重点的に低くすることが課題となることがわかった。</p> <p>本研究により、今まで明らかにされていなかった「瞬間的な判断を要する運転場面においても、なぜ自己志向的にビクビクしてしまうのか」という疑問に対する理由の一つを見つけることができた。運転時においても対人場面と同じように他者のネガティブな感情に自己志向的にビクビクしてしまうのは、未知の状況を回避しようとしあいまいな状況や未知の状況に不安を感じ回避したいという程度を示す「不確実性回避傾向」が関係していることが明らかになった。</p>	
(指導教員の推薦のコメント)	
<p>本卒論は、しっかりとした量的調査を行なって日本人の若者の運転行動の特徴を明らかにしている。運転時における他者との関係性に注目し、運転行動をコミュニケーション学の立場から分析しようとした着眼点が素晴らしい。特に、日本人に多いとされる「不確実性の回避傾向」という文化的特性に注目し、運転時に、何が起きているのか、運転者はどのような人なのかがわからず不安である状況を回避しようとする中で、他者のネガティブな感情を過度に想起してしまい、かえって運転行動を不安定にしてしまうことを明らかにした点は特筆に値する。高度な統計手法を十分に使いこなした卒論が提出されたことを喜ぶたい。</p>	